

(様式第 10)

旭医大第 1 2 3 0 号
平成 26 年 10 月 3 日

北海道厚生局長 殿

開設者名 国立大学法人旭川医科大学
学長 吉田 晃敏

旭川医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 2 5 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
氏 名	吉田 晃敏

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

旭川医科大学病院

3 所在の場所

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号	電話(0166) 65-2111
----------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 腎臓内科 3 呼吸器内科 4 脳神経内科 5 糖尿病内科 6 内分泌内科 7 消化器内科 8 血液・腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓外科 2 血管外科 3 呼吸器外科 4 乳腺外科 5 小児外科 6 消化器外科 7 頭頸部外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31床	床	床	床	571床	602床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 9 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	256人	116人	348.2人	看 護 補 助 者	59人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	6人	8人	12.4人	理 学 療 法 士	9人	臨床	48人
薬 剤 師	37人	0人	37.0人	作 業 療 法 士	5人	検査	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	11人	あん摩マッサージ指圧師	0人
助 産 師	24人	4人	26.1人	義 肢 装 具 士	0人	医療社会事業従事者	4人
看 護 師	631人	52人	664.4人	臨 床 工 学 技 師	13人	その他の技術員	11人
准 看 護 師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	0人	事 務 職 員	106人
歯 科 衛 生 士	1人	0人	1.0人	歯 科 技 工 士	2人	その他の職員	49人
管 理 栄 養 士	8人	0人	8.0人	診 療 放 射 線 技 師	34人		

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 6 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	11人	眼 科 専 門 医	17人
外 科 専 門 医	25人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	3人	放 射 線 科 専 門 医	12人
小 児 科 専 門 医	20人	脳 神 経 外 科 専 門 医	8人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	16人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	23人
産 婦 人 科 専 門 医	11人	救 急 科 専 門 医	5人
		合 計	178人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	467.2 人	4.8 人	472.0 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1553.3 人	51.4 人	1,604.7 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数			721.19 剤
必要医師数			137人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			16人
必要(准)看護師数			291人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	579 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	病床数	19床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 47 m ² [移動式の場合] 台数 6 台		病床数	4 床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 182 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	388 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 総合血液学検査装置 ADVIA2120			
細菌検査室	80 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 自動細菌検査システム MIC2000			
病理検査室	408 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 生物顕微鏡 バーチャルスライド装置			
病理解剖室	93 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 床埋込式デジタル遺体計量器 SH-FD			
研 究 室	892 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	(主な設備) 全自動免疫染色装置			
講 義 室	624 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリ ート	室数	3 室	収容定員	553 人
図 書 室	4,295m ²	鉄筋コン クリート	室数	10 室	蔵書数	16万 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	68.3%	逆紹介率	45.9%
算 出 根 拠	A：紹介患者の数	10,713 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,893 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,031 人	
	D：初診の患者の数	17,186 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
<p>甲状腺未分化癌以外の甲状腺皮膜浸潤を伴わず、画像上明らかなリンパ節腫大を伴わない甲状腺癌を本術式の適応症とする。 全身麻酔下で内視鏡下に甲状腺組織を切除する。</p> <p>内視鏡による手術は一般に普及しているが、頸部腫瘍に対するアプローチは広がっていない。当該手術は従来の手術法と比較し、悪性病変の物理的除去及び腫瘍随伴症状の改善による根治性はほぼ同程度に期待される。また、当該手術法は反回神経や副甲状腺の視認が格段に向上するため、反回神経損傷や副甲状腺機能亢進症などの術後合併症を減らすことが期待できる。頸部に手術創がないために、術後の疼痛、ひきつれ感や違和感などの症状が軽減され、術後頸部創の整容性向上が期待できる。 当該技術は、平成25年10月に先進医療として承認されており、平成26年9月現在、4医療機関で実施されている。</p>			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	45人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	16人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	21人	・原発性胆汁性肝硬変	25人
・全身性エリテマトーデス	142人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	24人
・再生不良性貧血	11人	・混合性結合組織病	13人
・サルコイドーシス	66人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	1人	・特発性間質性肺炎	3人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	99人	・網膜色素変性症	7人
・特発性血小板減少性紫斑病	17人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	34人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	125人	・神経線維腫症	5人
・大動脈炎症候群	11人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	8人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	6人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	100人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	8人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	44人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	4人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	19人	・肥大型心筋症	53人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	5人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	23人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	2人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	27人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯A000 2 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・A234 医療安全対策加算1
・歯A000 注9 歯科外来診療環境体制加算	・A234-2 感染防止対策加算1
・歯A000 注10 歯科診療特別対応連携加算	・A234-2 注2 感染防止対策地域連携加算
・A104 特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神15:1)	・A234-3 患者サポート体制充実加算
・A204-2 臨床研修病院入院診療加算(基幹型病院)	・A236 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・A204-2 臨床研修病院入院診療加算 (歯科、単独型又は管理型病院)	・A236-2 ハイリスク妊娠管理加算
・A205 救急医療管理加算1,2	・A237 ハイリスク分娩管理加算
・A205-2 超急性期脳卒中加算	・A238 退院調整加算
・A205-3 妊産婦緊急搬送入院加算	・A238-3 注1 新生児特定集中治療室退院調整加算3
・A207 診療録管理体制加算2	・A238-4 救急搬送患者地域連携紹介加算
・A207-3 急性期看護補助体制加算 25対1 (補助者5割未満)	・A238-5 救急搬送患者地域連携受入加算
・A208 注1 乳幼児加算	・A245 データ提出加算1
・A208 注2 幼児加算	・A245 データ提出加算2
・A212 注1 超重症児(者)入院診療加算	・A300 救命救急入院料1
・A212 注2 準超重症児(者)入院診療加算	・A300 注3 充実度A評価加算
・A214 看護補助加算1 30対1	・A301 特定集中治療室管理料3
・A219 療養環境加算	・A301 注2 小児加算
・A221 重症者等療養環境特別加算	・A302 新生児特定集中治療室管理料1
・A221-2 小児療養環境特別加算	・A303-2 新生児治療回復室入院医療管理料1
・A224 無菌治療室管理加算1	・A307 小児入院医療管理料2
・A226-2 緩和ケア診療加算	・A307 注2 プレイルーム加算
・A232 がん診療連携拠点病院加算	・A307 注2 プレイルーム加算
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・B001 3 注1 悪性腫瘍特異物質治療管理料 尿中BTA検査	・H002 運動器リハビリテーション料(I)
・B001 3 注2 悪性腫瘍特異物質治療管理料 腫瘍マーカー検査	・H002 初期加算
・B001 4 注 小児特定疾患カウンセリング料	・H003 呼吸器リハビリテーション料(I)
・B001 5 注1 小児科療養指導料	・H003 初期加算
・B001 9 注 外来栄養食事指導料	・H007-2、歯H003 がん患者リハビリテーション料
・B001 10 注1 入院栄養食事指導料1	・歯H001-3 歯科口腔リハビリテーション料2
・B001 10 注2 入院栄養食事指導料2	・I013 注2 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (2 治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)
・B001 11 注 集団栄養食事指導料	・I014 医療保護入院等診療料
・B001 12 注4 植込型除細動器移行期加算	・J038 注9 人工腎臓 透析液水質確保加算2
・B001 14 注1 高度難聴指導管理料	・J045-2 一酸化窒素吸入療法
・B001 18 注1 小児悪性腫瘍患者指導管理料	・J07-4 磁気による膀胱等刺激法
・B001 20 注1 糖尿病合併症管理料	・手術通則 医科点数表第2章第10部手術の通則5 及び6に掲げる手術
・B001 22 注1 がん性疼痛緩和指導管理料1,2	・K007、歯J104-2 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・B001 23 注1 がん患者指導管理料1	・K059 4 骨移植術(軟骨移植術を含む。) 自家培養軟骨移植術
・B001 23 注2 がん患者指導管理料2	・K181、K181-2 脳刺激装置植込(頭蓋電極植込術を含む。)、 脳刺激装置交換術
・B001 24 注1 外来緩和ケア管理料	・K190、K190-2 脊髄刺激装置植込術、 脊髄刺激装置交換術
・B001 27 注1 糖尿病透析予防指導管理料	・K254 1 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの (角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
・B001-2-3 注 乳幼児育児栄養指導料	・K268 5 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
・B001-2-5 注 院内トリアージ実施料	・K280-2 網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
・B001-2-7 注1 外来リハビリテーション診療料	・K281-2 網膜再建術
・B001-2-8 注1 外来放射線照射診療料	・K328 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術 及び植込型骨導補聴器交換術
・B005-2 注1 地域連携診療計画管理料	・K340-7 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・B005-6 注1 がん治療連携計画策定料1,2	・K476 注1,2 乳がんセンチネルリンパ節加算2
・B005-6-3 注1 がん治療連携管理料	・K546 経皮的冠動脈形成術
・B005-8 注1 肝炎インターフェロン治療計画料	・K549 経皮的冠動脈ステント留置術
・B008 注1 薬剤管理指導料	・K597、K597-2 ペースメーカー移植術、 ペースメーカー交換術
・B011-4 注1 医療機器安全管理料1	・K597-3、K597-4 植込型心電図記録計移植術、 植込型心電図記録計摘出術
・B011-4 注2 医療機器安全管理料2	・K598、K598-2 両心室ペースメーカー移植術、 両心室ペースメーカー交換術

・歯B018 医療機器安全管理料(歯科)	・K599、K599-2 植込型除細動器移植術、 植込型除細動器交換術
・歯B004-6 注1 歯科治療総合医療管理料	・K599-3、K599-4 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術、 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・C005 注2 在宅患者訪問看護指導料3	・K599-5 経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・C152-2 注1 持続血糖測定器加算	・K600 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・D006-2 造血管腫瘍遺伝子検査	・K603 補助人工心臓
・D023 7 HPV核酸検出	・K615-2 経皮の大動脈遮断術
・D023 7 注 HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・K636-2 ダメージコントロール手術
・D026 検体検査管理加算(IV)	・K664 胃瘻造設術(経皮の内視鏡下胃瘻造設術、 腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・D026 遺伝カウンセリング加算	・K695-2 腹腔鏡下肝切除術
・D206 心臓カテーテル法による諸検査(血管内視鏡検査)	・K697-5 生体部分肝移植術
・D210-3 植込型心電図検査	・K702-2 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・D211-3 時間内歩行試験	・K721-4 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・D215 胎児心エコー法	・K768 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・D225-4 ヘッドアップティルト試験	・K800-3 膀胱水圧拡張術
・D231-2 皮下連続式グルコース測定	・K803-2 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・D235-2 長期継続頭蓋内脳波検査	・K803-3 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・D239-3 神経学的検査	・K823-5 人工尿道括約筋植込・置換術
・D244-2 補聴器適合検査	・K843-3 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・D270-2 ロービジョン検査判断料	・K879-2 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)
・D282-3 1 コンタクトレンズ検査料1	・K920-2、歯J200-2 輸血管管理料 I
・D291-2 小児食物アレルギー負荷検査	・K939-3 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・D291-3 内服・点滴誘発試験	・K939-4 内視鏡手術用支援機器加算
・D409-2 センチネルリンパ節生検	・K939-5 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・D415 注2 経気管肺生検法 (CT透視化気管支鏡検査加算)	・歯J063 5 歯周組織再生誘導手術
・E 通則4 画像診断管理加算1	・歯科J063 注5 手術時歯根面レーザー応用加算
・E 通則5 画像診断管理加算2	・歯J109 広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・E 通則6、7 遠隔画像診断(受信側)	・L009 麻酔管理料 I
・E101-2 ポジトロン断層撮影	・L010 麻酔管理料 II
・E101-3 ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・M000 注2、歯L000 注2 放射線治療専任加算
・E200 CT撮影 イ～ニ	・M000 注3 外来放射線治療加算
・E200 注4 冠動脈CT撮影加算	・M001 3、歯L001 3 高エネルギー放射線治療

・E200 注6 外傷全身CT加算	・M001 注2 1回線量増加加算
・E200 注7 大腸CT撮影加算	・M001 4、歯L001 4 強度変調放射線治療(IMRT)
・E202 MRI撮影1～3	・M001 注4、歯L001 注6 画像誘導放射線治療加算(IGRT)(体外照射)
・E202 注4 心臓MRI撮影加算	・M001-3 直線加速器による定位放射線治療
・F100 注7、F400 注5 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・歯M001 注5、歯M001-2 注1 う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・G 通則6、歯 通則6 外来化学療法加算1	・歯M029 注3 歯科技工加算
・G020 無菌製剤処理料	・通則6 保険医療機関間の連携による病理診断
・H000 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)	・通則7 テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製(受信側)
・H000 初期加算	・通則7 テレパソロジーによる術中迅速細胞診(受信側)
・H001 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・N006 注4 病理診断管理加算1
・H001 初期加算	・歯M002-2 クラウン・ブリッジ維持管理料
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
「オール北海道先進医学・医療拠点形成」(治験段階に移行する基礎研究の創出)	吉田 晃敏	学長	81,555,000	補	研究開発施設共用等促進費補助金
網膜循環における神経-血管連関(Neurovascular Coupling)の調節機構の解明と糖尿病網膜症の早期診断への臨床応用	長岡 泰司	眼科学講座	2,000,000	補	公益財団法人 武田科学振興財団
毛細血管由来幹細胞(Capillary stem cells)の網膜再生治療への応用	横田 陽匡	眼科学講座	700,000	補	公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団
腫瘍リンパ管内皮細胞培養系の樹立と生物学的特徴の解明	齊藤 幸裕	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,000,000	補	公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団
FDG-PET/MRIを用いた先天性心疾患患者の右心機能評価法の開発	杉本 昌也	小児科学講座	2,000,000	補	公益財団法人 武田科学振興財団
第19回伊藤財団海外学会党出席研究交流助成	小西 弘晃	内科学講座(消化器・血液腫瘍内科学分野)	200,000	補	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
Brain Machine Interfaceを用いた急性期脳卒中リハビリの効果	大田 哲生	リハビリテーション科	910,000	補	日本学術振興会(科研費)
特異的T細胞同定によるフォークト・小柳・原田病の診断法の確立	木ノ内 玲子	医工連携総研講座	780,000	補	日本学術振興会(科研費)
「Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第III相臨床試験	古川 博之	外科学講座	0	委	財)先端医療振興財団
「Stage II 大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発high-risk群とフッ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究」	古川 博之	外科学講座	0	委	財)先端医療振興財団
Stage III 結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1療法の第III相比較臨床試験および遺伝子発現に基づく効果予測因子の探索的研究	古川 博之	外科学講座	0	委	財)先端医療振興財団
「治療切除結腸癌(Stage III)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究」(研究略称:B-CAST)	古川 博之	外科学講座	0	委	財)先端医療振興財団
初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法— CPT-11単独療法 vs TS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第II/III相臨床試験 —	長谷川 公治	外科学講座	0	委	特非 日本がん臨床試験推進機構
Stage III 治療切除胃癌症例におけるTS-1術後補助化学療法の予後予測因子および副作用発現の危険因子についての探索的研究(JACCRO GC-07AR)	小原 啓	外科学講座	0	委	特非 日本がん臨床試験推進機構
静脈内皮細胞機能のエピゲノム調節における長寿遺伝子の役割	東 信良	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,430,000	補	日本学術振興会(科研費)
新規治療用遺伝子CSDAによる血管内膜肥厚抑制療法の開発	齊藤 幸裕	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,820,000	補	日本学術振興会(科研費)
脳死ドナーにおける多臓器摘出に関する教育プログラムの確立	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	6,345,000	補	厚生労働省(厚生労働科学研究費補助金)
心停止ドナーによる肝移植のための新規保存液を用いたグラフト灌流保存法の開発	谷口 雅彦	外科学講座(消化器病態外科学分野)	2,210,000	補	日本学術振興会(科研費)
JFMC38-0901臨床研究 研究助成金	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	25,000	補	公益財団法人 がん集学的治療研究財団
エイズ診療向上に関する調査研究	大崎 能伸	感染制御部	4,096,000	委	北海道知事
医療者・介護者・福祉者のための「ケア・カフェ」の全国開催支援および、医療介護福祉従事者間の連携尺度を用いた「ケア・カフェ」の実効性の調査研究	阿部 泰之	緩和ケア診療部	1,900,200	補	一般財団法人 杉浦地域医療振興財団
新たな網膜循環調節因子と網膜症治療法の確立	大前 恒明	眼科	1,430,000	補	日本学術振興会(科研費)
シェアストレスの血液網膜関門へ及ぼす作用の解明	石羽澤 明弘	眼科	2,470,000	補	日本学術振興会(科研費)
網膜循環における神経-血管連関の調節機構の解明と糖尿病網膜症早期診断への臨床応用	長岡 泰司	眼科学講座	6,500,000	補	日本学術振興会(科研費)
ガス分子による新しい網膜循環調節機構の解明	長岡 泰司	眼科学講座	1,820,000	補	日本学術振興会(科研費)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
糖転移ヘスペリジンによる糖尿病網膜症新規治療薬の開発	横田 陽匡	眼科学講座	1,690,000	補	日本学術振興会(科研費)
慢性腸炎による線維化を改善する新規腸内細菌由来活性物質の同定とその治療効果の解析	嘉島 伸	救急科	2,210,000	補	日本学術振興会(科研費)
CREデコイODNによる血管内膜肥厚抑制効果の検討	内田 大貴	救急科	1,430,000	補	日本学術振興会(科研費)
北海道における冬季の患者受療行動モデルの構築と評価	谷川 琢海	経営企画部	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
肺癌の新たな個別化治療の確立を目指したNampt遺伝子の変異解析とその機能解析	大崎 能伸	呼吸器センター	2,210,000	補	日本学術振興会(科研費)
新規ALK阻害薬に対する耐性機序の解明	佐々木 高明	呼吸器センター	1,300,000	補	日本学術振興会(科研費)
ROR1を標的とした肺癌の免疫治療に向けた基盤研究	林 諭史	呼吸器センター	1,690,000	補	日本学術振興会(科研費)
癌化学療法時の悪心嘔吐(CINV)観察研究	佐々木 高明	呼吸器センター	35,000	補	公益財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター
がん研究費	北田 正博	呼吸器センター	180,000	補	公益財団法人 北海道対がん協会
ゲフィチニブ単剤療法増悪後のEGFR遺伝子変異陽性高齢者進行非小細胞肺癌に対するドセタキセル単剤療法とドセタキセル・ゲフィチニブ併用療法のランダム化比較第Ⅱ相試験	大崎 能伸	呼吸器センター	0	委	社)日本・多国間臨床試験機構
化学療法未施行ⅢB/Ⅳ期・術後再発肺扁平上皮癌に対するネダプラチン+ドセタキセル併用療法とシスプラチン+ドセタキセル併用療法の無作為化比較第Ⅲ相臨床試験(WJOG5208L)	大崎 能伸	呼吸器センター	0	委	特非 西日本がん研究機構
進行再発肺腺癌におけるゲフィチニブとエルロチニブのランダム化第Ⅲ相試験(WJOG5108L)	大崎 能伸	呼吸器センター	0	委	特非 西日本がん研究機構
上皮成長因子受容体遺伝子変異(Exon 19 deletionまたはExon 21 point mutation)がない、または不明である非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+ペバシズマブ併用療法施行後、維持療法として、ペメトレキセド+ペバシズマブ併用療法をペバシズマブ単剤と比較する第Ⅲ相臨床試験(WJOG5610L)	大崎 能伸	呼吸器センター	420,000	委	特非 西日本がん研究機構
化学療法未施行ⅢB/Ⅳ期肺扁平上皮癌に対するCBDCA+TS-1併用療法後のTS-1維持療法の無作為化第Ⅲ相試験(WJOG7512L)	大崎 能伸	呼吸器センター	210,000	委	特非 西日本がん研究機構
ヒト無精子症と早発閉経の病態解明および臨床医学への応用	宮本 敏伸	産科婦人科	2,340,000	補	日本学術振興会(科研費)
精子形成遺伝子群の網羅的解析による精子形成メカニズムの解明	千石 一雄	産婦人科学講座	1,040,000	補	日本学術振興会(科研費)
がん研究費	千石 一雄	産婦人科学講座	446,000	補	公益財団法人 北海道対がん協会
平成24年度子どもの健康と環境に関する全国調査その2	千石 一雄	産婦人科学講座	16,776,140	委	国立大学法人北海道大学
平成25年度子どもの健康と環境に関する全国調査	千石 一雄	産婦人科学講座	7,599,538	委	国立大学法人北海道大学
不妊・不育症患者の実態と生殖補助医療技術による妊孕性の向上に関する研究	千石 一雄	産婦人科学講座	802,740	委	北海道知事
扁桃病巣疾患における病態解明と扁桃摘出術の有用性に関する基礎的エビデンス	高原 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補	日本学術振興会(科研費)
電気刺激による内喉頭筋の再運動化と筋萎縮の抑制に関する研究	片田 彰博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫の病態におけるEBウイルスmicroRNAの機能解析	駒林 優樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫に対するEBウイルス・腫瘍増殖分子標的治療の基盤的研究	原 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,980,000	補	日本学術振興会(科研費)
喉頭ペーシングの改良に関する研究	野村 研一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補	日本学術振興会(科研費)
鼻性NK/T細胞リンパ腫における溶解感染誘導の検討	上田 征吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補	日本学術振興会(科研費)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胎盤11ベータヒドロキシステロイド脱水素酵素が胎児発育に及ぼす影響に関する研究	長屋 建	周産母子センター	1,560,000	補	日本学術振興会(科研費)
胎盤甲状腺ホルモントランスポーターの発現と早産児甲状腺機能の関連についての検討	野原 史勝	周産母子センター	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
心筋IKsチャンネルに対する吸入麻酔薬と交感神経刺激の相互作用	三國 生臣	集中治療部	1,300,000	補	日本学術振興会(科研費)
次世代型DNA解析システムを用いた肺高血圧治療薬の有効性と遺伝子多型の関連の検討	杉本 昌也	小児科	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
新生児ヘルペスにおける抗炎症的治療介入に関する基盤研究	長森 恒久	小児科	1,300,000	補	日本学術振興会(科研費)
リポソーム投与により誘導されるMDSC様細胞の機能発現に関わる分子基盤の解明	東 寛	小児科学講座	2,470,000	補	日本学術振興会(科研費)
新規鉄代謝指標・生体内不安定鉄NTBIの革新的測定法開発・実用化研究及び臨床応用	佐々木 勝則	消化管再生修復医学講座	1,040,000	補	日本学術振興会(科研費)
新規鉄輸送促進剤によるHIF-1 α 抑制作用とその肝臓治療効果の解析	田中 宏樹	消化管再生修復医学講座	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
DNA修復機構APE-1の心筋幹細胞に対する細胞機能再生及び虚血耐性に対する効果	竹原 有史	心血管再生・先端医療開発講座	1,040,000	補	日本学術振興会(科研費)
再生医療開発にむけた間葉系幹細胞様の毛細血管周細胞の機能解明	川辺 淳一	心血管再生・先端医療開発講座	2,470,000	補	日本学術振興会(科研費)
慢性骨盤痛症候群における肥満細胞の意義および病態解明	松本 成史	腎泌尿器外科学講座	910,000	補	日本学術振興会(科研費)
神経性間欠跛行を再現するfictive実験モデルの開発	熱田 裕司	整形外科	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
股関節各軟部組織の安定性に対する貢献度の評価	伊藤 浩	整形外科講座	910,000	補	日本学術振興会(科研費)
非トランスフェリン結合鉄による赤血球造血抑制と鉄キレート剤での造血回復効果の検討	生田 克哉	第三内科	2,470,000	補	日本学術振興会(科研費)
ヒト培養バレット上皮のエピゲノム解析と幹細胞性の実証を基盤とした新規予防治療法	盛一 健太郎	第三内科	1,690,000	補	日本学術振興会(科研費)
神経ペプチドオレキシンの消化管運動調節機構とその意義	野津 司	地域医療教育学講座	1,040,000	補	日本学術振興会(科研費)
新しい診断手法の肝臓検診への応用とこれを用いた肝臓診療のエビデンス構築をめざした多施設共同研究	阿部 真美 麻生 和信	内科学講座	0	委	NPO法人 日本肝がん臨床研究機構
中等度活動性を有する関節リウマチ患者におけるエタネルセプト療法の有効性の検討	牧野 雄一	内科学講座	0	委	タップコーポレーション(株) 特非)先端医療研究支援機構
非弁膜症性心房細動患者における抗血栓療法の施行実態調査	長谷部 直幸	内科学講座	100,000	委	京都大学大学院医学研究科
非代償性心不全で入院し、体液貯留に対してトルバパタン治療を受けた患者に関する多施設共同前向きコホート研究(MT FUJI study)	長谷部 直幸	内科学講座	126,000	委	財)先端医療振興財団
65歳以上の高齢者2型糖尿病における、シタグリブチンあるいはグリメピリドによる有効性及び安全性に関する比較検討試験(START-J)	羽田 勝計	内科学講座	157,500	委	社)日本糖尿病協会 サイトサポート・インスティテュート(株)
初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法— CPT-11単独療法 vs TS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第II/III相臨床試験 —	高後 裕	内科学講座	0	委	特非 日本がん臨床試験推進機構
HER2陽性・65歳以上の振興再発胃癌に対するティーエスワン+トラスツマブ併用療法の第II相試験(JACCRO GC-06)	高後 裕	内科学講座	0	委	特非 日本がん臨床試験推進機構
保存期慢性腎臓病のerythropoiesis stimulating agent低反応性腎性貧血患者に対するエポエチンベータベゴル製剤投与時の維持ヘモグロビン値による腎予後の評価 多施設共同、オープンラベル、ランダム化並行群間比較試験(R ADIANCE-CKD study)	長谷部 直幸	内科学講座	0	委	特非 日本臨床研究支援ユニット
脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の二次予防効果を検討する大規模臨床研究(略称RESPECT Study)	長谷部 直幸	内科学講座	0	委	特非)RESPECT研究会
熱ショック蛋白を介するポストコンディショニングの心保護効果	竹内 利治	内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	390,000	補	日本学術振興会(科研費)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
酸化的DNA塩基損傷修復と熱ショック蛋白修飾による心血管リモデリング抑制の研究	長谷部 直幸	内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	1,430,000	補	日本学術振興会(科研費)
冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験REAL-CAD(CSP-LD9)	長谷部 直幸	内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	510,000	補	公益財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター
炎症性腸疾患バイオフィルム微生物由来活性物質を介した粘膜保護作用の解析とその制御	高後 裕	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	2,340,000	補	日本学術振興会(科研費)
細胞膜有機イオン輸送体および接着分子による新規微生物認識機構の解明と腸炎への関与	藤谷 幹浩	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	650,000	補	日本学術振興会(科研費)
ERストレスを介した鉄代謝調節とUPR破綻による鉄過剰のメカニズム	大竹 孝明	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	2,600,000	補	日本学術振興会(科研費)
糖尿病性腎症におけるグルコース応答性遺伝子発現制御機構の解明と新規治療法の開発	羽田 勝計	内科学講座(病態代謝内科学分野)	5,070,000	補	日本学術振興会(科研費)
short-form GIPの分泌機構および糖代謝改善機序を解明する	藤田 征弘	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,040,000	補	日本学術振興会(科研費)
免疫細胞制御における低酸素応答性転写因子群の役割の解明と炎症性疾患治療への応用	牧野 雄一	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,170,000	補	日本学術振興会(科研費)
糖尿病研究課題3 (J-DOIT3)	羽田 勝計	内科学講座病態代謝内科学分野	1,400,000	補	公益財団法人 日本糖尿病財団
2型糖尿病患者を対象としたレセプター結合に基づくバイオアッセイを用いた活性型インクレチン測定の見直し	柳町 剛司	内科学講座病態代謝内科学分野	1,000,000	補	公益財団法人 日本糖尿病財団
Short-form GIPの生理学的意義と糖代謝改善機構を解明する	藤田 征弘	内科学講座病態代謝内科学分野	1,000,000	補	公益財団法人 日本糖尿病財団
癌の蛍光診断を応用した新たな体内リンパ節と体内深部の転移病巣診断法の開発	北田 正博	乳腺疾患センター	520,000	補	日本学術振興会(科研費)
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験(POTENT)	北田 正博	乳腺疾患センター	2,040,000	委	財)パブリックヘルスリサーチセンター
JBCRG-19「HER2陰性進行再発乳癌患者の初回治療としてのエリブリンの臨床的有用性に関する検討(ランダム化第Ⅱ相試験)」	北田 正博	乳腺疾患センター	0	委	社)JBCRG
JBCRG-17「HER2陰性局所進行乳癌に対するアンスラサイクリン・タキサン・エリブリン逐次療法の有用性確認試験」	北田 正博	乳腺疾患センター	0	委	社)JBCRG
JBCRG-C05「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたペバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」	北田 正博	乳腺疾患センター	50,000	委	社)JBCRG
皮質電位と脳機能画像標準化によるヒト機能テンプレート作成と信号解読	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	4,290,000	補	日本学術振興会(科研費)
脳皮質電位P300解析に基づく意思疎通法の確立	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	500,000	補	一般社団法人 日本ALS協会
脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板併用療法の有効性及び安全性の検討(CSPS. com)	和田 始	脳神経外科学講座	0	委	財)循環器病研究振興財団
ステント支援脳動脈瘤塞栓術の効果と安全性に関する多施設共同前向き観察研究(ESSENCE)	和田 始	脳神経外科学講座	0	委	財)先端医療振興財団
新規ナビゲーションの開発と術中MRIを用いた、脳神経機能温存の脳腫瘍手術	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	500,000	委	独)国立がん研究センター
皮膚バリア障害における角層デスマゾームの異常の解析と治療への応用	山本 明美	皮膚科学講座	1,040,000	補	日本学術振興会(科研費)
超短縮エコー時間磁気共鳴画像の肺評価法の確立と臨床応用	佐々木 智章	放射線医学講座	1,300,000	補	日本学術振興会(科研費)
イオパミロン注を使用した腹部CTおよび冠動脈CT検査における投与ヨード量と造影効果に関する観察研究	高橋 康二	放射線部	0	委	バイエル薬品(株)メディカルアフェアーズ本部
ガドキセト酸ナトリウム肝造影ダイナミックMRI～動脈相画像におけるtruncation artifact出現と検査条件との相関性に関する後ろ向き研究～[TARGET Study]	高橋 康二	放射線部	819,000	委	バイエル薬品(株)メディカルアフェアーズ本部
炎症性血管病変の形成に対する内因性プロスタノイドの役割解明	高畑 治	麻酔・蘇生学講座	1,560,000	補	日本学術振興会(科研費)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
妊娠と神経障害性疼痛	小野寺 美子	麻酔・蘇生学講座	260,000	補	日本学術振興会(科研費)
心筋代謝異常が虚血再灌流障害に対する吸入麻酔薬の心筋保護作用に及ぼす影響	菊地 千歌	麻酔・蘇生学講座	2,340,000	補	日本学術振興会(科研費)
α7アセチルコリン受容体刺激が筋分化・肥大に及ぼす影響	笹川 智貴	麻酔・蘇生学講座	2,080,000	補	日本学術振興会(科研費)
ドラッグリプロファイリングによる新規メカニズムを持つ抗パーキンソン病薬の開発	田崎 嘉一	薬剤部	2,080,000	補	日本学術振興会(科研費)
同定困難な細菌を対象とした新しい微生物同定分析装置バイテックMSの同定精度に関する研究	渡 智久	臨床検査・輸血部	500,000	補	NPO法人 つくば臨床検査教育・研究センター
腸管組織におけるオートファジーの機能および腸管炎症病態との関連性の解明	稲場 勇平	臨床消化器・肝臓学診療連携講座	2,080,000	補	日本学術振興会(科研費)
計			237,433,118	円	

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文 (英語論文)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	油川 陽子	第一内科	Prostacyclin stimulated integrin-dependent angiogenic effects of endothelial progenitor cells and mediated potent circulation recovery in ischemic hind limb model	Circulation Journal, 77(4), 1053-1062, 2013
2	アハメド・ターリブ	第一内科	Impaired ventricular repolarization dynamics in patients with early repolarization syndrome	J Cardiovasc Electrophysiol., 24(5), 556-61, 2013
3	佐藤 伸之	第一内科	Combination of antihypertensive therapy in the elderly, multicenter investigation (CAMUI) trial: results after 1 year.	J Hypertens, 31(6), 1245-1255, 2013
4	シャリフイムヒブ	第一内科	Epicardial adipose tissue is associated with prevalent atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy.	International Heart Journal, 54(5), 297-303, 2013
5	藤野 貴行	第一内科	Silencing of p53 RNA through transarterial delivery ameliorates renal tubular injury and downregulates GSK-3 beta expression after ischemia-reperfusion injury.	Am J Physiol Renal Physiol., 305(11), F1617-27, 2013
6	山内 敦司	第一内科	Apurinic/aprimidinic endonuclease 1 maintains adhesion of endothelial progenitor cells and reduces neointima formation.	Am J Physiol Heart Circ Physiol., 305(8), H1158-67, 2013
7	太田 久宣	第一内科	Dipstick proteinuria as a surrogate marker of long-term mortality after acute myocardial infarction	Journal of Cardiology, 62(5), 277-282, 2013
8	坂本 央	第一内科	Three cases of corticosteroid therapy triggering ventricular fibrillation in J-wave syndromes.	Heart Vessels, [Epub ahead of print], 2013
9	浅野目 晃	第一内科	Nerve growth factor stimulates regeneration of perivascular nerve, and induces the maturation of microvessels around the injured artery.	Biochem Biophys Res Commun., 443(1), 150-5, 2014
10	齋藤 司	第一内科	A case of diffuse large B-cell lymphoma with localized femoral nerve palsy.	Neurol Sci, 35(1), 103-4, 2014
11	齋藤 司	第一内科、Tokyo Medical University	Cerebral Microbleeds and Asymptomatic Cerebral Infarctions in Patients with Atrial Fibrillation	J Stroke Cerebrovasc Dis, 23(6), 1616-22, 2014
12	坂上 英充	第二内科	Loss of HIF-1alpha impairs GLUT4 translocation and glucose uptake by the skeletal muscle cells.	Am J Physiol Endocrinol Metab, 306, 1065-1076, 2014
13	玉木 陽徳	第二内科	Angiotensin II type 1 receptor antagonist prevents hepatic carcinoma in rats with nonalcoholic steatohepatitis.	J Gastroenterol. 2013, Apr; 48(4), 491-503
14	長谷部 拓夢	第三内科	Effective control of relapsing disseminated intravascular coagulation in a patient with decompensated liver cirrhosis by recombinant soluble thrombomodulin.	Intern Med., 2014, 53(1), 29-33.
15	坂谷 慧	第三内科、Sapporo Higashi Tokushukai Hospital	Infliximab extends the duration until the first surgery in patients with Crohn's disease.	Biomed Res Int. Epub 2013 Nov 26.

小計 15 件

16	藤谷 幹浩	第三内科	microRNA-18a induces apoptosis in colon cancer cells via the autophagolysosomal degradation of oncogenic heterogeneous nuclear ribonucleoprotein A1.	Oncogene. 2013 Oct 28. [Epub ahead of print]
17	河本 徹	第三内科	Ex vivo activation of angiogenic property in human peripheral blood-derived monocytes by thrombopoietin.	Int J Hematol. 2013 Oct;98(4):417-29.
18	野村 好紀	臨床消化器・肝臓学診療連携講座	Reduction of E-cadherin by human defensin-5 in esophageal squamous cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Sep 13;439(1):71-7.
19	市來 一彦	第三内科	Upregulation of iron regulatory hormone hepcidin by interferon alpha.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Feb;29(2):387-94
20	奈田 利恵	第三内科	MicroRNA-146b improves intestinal injury in mouse colitis by activating nuclear factor- κ B and improving epithelial barrier function.	J Gene Med. 15(6-7):249-60. 2013
21	伊藤 貴博	第三内科	Intraluminal duodenal diverticulum with refractory pancreatitis successfully treated by endoscopic diverticulectomy.	Dig Endosc. 25(3):336-7. 2013
22	鈴木 康秋	第三内科	Survey of non-B, non-C liver cirrhosis in Japan.	Hepatol Res. 43(10):1020-31. 2013
23	杉本 昌也	小児科	Assessment of pulmonary arterial pressure by velocity-encoded cine magnetic resonance imaging in children with congenital heart disease.	Circulation Journal, 77(12), 3015-22, 2013
24	鈴木 滋	小児科	Evaluation of glycated hemoglobin and fetal hemoglobin-adjusted HbA1c measurements in infants	Pediatr Diabetes. 14(4):267-72, 2013
25	鈴木 滋	小児科	A case of pancreatic agenesis and congenital heart defects with a novel GATA6 nonsense mutation: evidence of haploinsufficiency due to nonsense-mediated mRNA decay	Am J Med Genet A. 164A(2):476-9, 2014
26	松尾 公美浩	小児科	A case of vitamin D deficiency without elevation of serum alkaline phosphatase in a carrier of hypophosphatasia	Clin Pediatr Endocrinol 22(4): 73-6, 2013
27	長屋 建	周産母子センター	The temperature change in an endotracheal tube during high frequency ventilation using an artificial neonatal lung model with Babylog® 8000 plus	Pediatr. Pulmonol., 2013 Dec. [Epub ahead of print]
28	齋藤 幸裕	第一外科	Lymphedema and Therapeutic Lymphangiogenesis	BioMed Research International, 2013
29	林 諭史	呼吸器センター	Combined large cell neuroendocrine carcinoma with giant cell carcinoma of the lungs: a case report	World Journal of Surgical Oncology, 19;11(1):205, 2013
30	山本 明美	皮膚科	Inflammatory peeling skin syndrome caused by homozygous genomic deletion in the PSORS1 region encompassing the CDSN gene.	Exp Dermatol. 2014 Jan;23(1): 60-3.
31	菅野 恭子	皮膚科	Drug-induced hypersensitivity syndrome due to minocycline complicated by severe myocarditis.	J Dermatol. 2014 Feb;41(2):160-2.
32	高橋 英俊	皮膚科	Defective barrier function accompanied by structural changes of psoriatic stratum corneum.	J Dermatol. 2014 Feb;41(2):144-8.
33	本間 大	皮膚科	Eyelash trichomegaly: report of a case following diffuse hair loss associated with transient malnutrition.	J Dermatol. 2013 Sep;40(9):759-60.

34	井川 哲子	皮膚科	Aberrant distribution patterns of corneodesmosomal components of tape-stripped corneocytes in atopic dermatitis and related skin conditions (ichthyosis vulgaris, Netherton syndrome and peeling skin syndrome type B).	J Dermatol Sci. 2013 Oct;72(1):54-60.
35	飛澤 慎一	皮膚科	Prognostic factors in 105 Japanese cases of mycosis fungoides and Sézary syndrome: clusterin expression as a novel prognostic factor.	J Dermatol Sci. 2013 Sep;71(3):160-6.
36	高橋 英俊	皮膚科	Serum level of adiponectin increases and those of leptin and resistin decrease following the treatment of psoriasis.	J Dermatol. 2013 Jun;40(6):475-6.
37	高橋 英俊	皮膚科	Comparison of clinical effects of psoriasis treatment regimens among calcipotriol alone, narrowband ultraviolet B phototherapy alone, combination of calcipotriol and narrowband ultraviolet B phototherapy once a week, and combination of calcipotriol and narrowband ultraviolet B phototherapy more than twice a week.	J Dermatol. 2013, Jun;40(6):424-7
38	高橋 英俊	皮膚科	Japanese patients with psoriasis and atopic dermatitis show distinct personality profiles.	J Dermatol., 2013 May ; 40(5): 370-3.
39	堀 仁子	皮膚科	Optic neuritis in a psoriatic arthritis patient treated by infliximab.	J Dermatol. 2013 Apr;40(4):298-9.
40	本間 大	皮膚科	Podoplanin expression is inversely correlated with granular layer/flaggrin formation in psoriatic epidermis.	J Dermatol. 2013 Apr;40(4):296-7.
41	藤井 瑞恵	皮膚科	Intercellular contact augments epidermal growth factor receptor (EGFR) and signal transducer and activator of transcription 3 (STAT3)-activation which increases podoplanin-expression in order to promote squamous cell carcinoma motility.	Cell Signal. 2013 Apr;25(4):760-5.
42	松本 成史	腎泌尿器外科	Relationship between overactive bladder and irritable bowel syndrome: a large-scale internet survey in Japan using the overactive bladder symptom score and Rome III criteria.	BJU Internatinal. 111 (4), 647-652. 2013
43	松本 成史	腎泌尿器外科	Bladder function in 17beta-estradiol-induced nonbacterial prostatitis model in Wistar rat.	International Urology and Nephrology. 45 (3), 749-745. 2013
44	松本 成史	腎泌尿器外科	Association of ED with chronic periodontal disease	International Journal of Impotence Research. 26 (1), 13-15. 2014
45	松本 成史	腎泌尿器外科	Effects of chronic treatment with cilostazol, a phosphodiesterase 3 inhibitor, on female rat bladder in a partial bladder outlet obstruction model.	Urology. 83 (3), 675.e7-675.e11. 2014
46	和田 直樹	腎泌尿器外科	Urodynamic effects of dutasteride add-on therapy to alpha-adrenergic antagonist for patients with benign prostatic enlargement: Prospective pressure-flow study	Neurourology and Urodynamics. 32 (8), 1123-1127. 2013
47	和田 直樹	腎泌尿器外科	Nocturia and sleep quality after transurethral resection of the prostate.	International Journal of Urology. 21 (1), 81-85. 2014

小計 14 件

48	大前 恒明	眼科	Adiponectin-Induced Dilation of Isolated Porcine Retinal Arterioles via Production of Nitric Oxide from Endothelial Cells.	Investigative Ophthalmology & Visual Science 2013; 54(7): 4586-4594
49	下内 昭人	眼科	Vitreomacular interface in patients with familial exudative vitreoretinopathy.	International Ophthalmology 2013; 33(6):711-715
50	長岡 泰司	眼科	Relationship between retinal blood flow and renal function in patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease.	Diabetes Care. 2013; 36(4):957-961
51	宋 勇錫	眼科	Hypertensive choroidopathy with eclampsia viewed on spectral-domain optical coherence tomography	Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology 2013; 251(11) : 2647-2650
52	石羽澤 明弘	眼科	Low shear stress up-regulation of proinflammatory gene expression in human retinal microvascular endothelial cells.	Experimental Eye Research 2013; 116:308-311
53	川井 尚子	眼科、Nayoro City General Hospital	A study of the association between patterns of eye drop prescription and medication usage in glaucoma subjects.	Journal of glaucoma. 2013 Jun 25. [Epub ahead of print]
54	長岡 泰司	眼科	Relationship between retinal fractal dimensions and retinal circulation in patients with type 2 diabetes mellitus.	Current EYE RESEARCH 2013; 38(11):1148-1152
55	中林 征吾	眼科	Patency of small laser iridotomy evaluated using anterior-segment optical coherence tomography.	Clin Ophthalmol. 2014 Mar 21;8: 595-7.
56	谷 智文	眼科	Autoregulation of retinal blood flow in response to decreased ocular perfusion pressure in cats: comparison of the effects of increased intraocular pressure and systemic hypotension.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jan 20;55(1):360-7
57	太田 亮	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Contribution of the lateral lemniscus to the control of swallowing in decerebrate cats.	Neuroscience. 2013 Dec 19;254:260-74.
58	熊井 琢美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	EGFR inhibitors augment antitumour helper T-cell responses of HER family-specific immunotherapy.	Br J Cancer. 2013 Oct 15; 109(8): 2155-66.
59	駒林 優樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Downregulation of miR-15a due to LMP1 promotes cell proliferation and predicts poor prognosis in nasal NK/T-cell lymphoma.	Am J Hematol. 2014 Jan;89(1):25-33.
60	高原 幹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Soluble ICAM-1 secretion and its functional role as an autocrine growth factor in nasal NK/T cell lymphoma cells.	Exp Hematol. 2013 Aug;41(8):711-8.
61	原渕 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Clinical manifestations of granulomatosis with polyangiitis (Wegener's granulomatosis) in the upper respiratory tract seen by otolaryngologists in Japan.	Clin Exp Nephrol. 2013 Oct;17(5):663-6.
62	野村 研一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Intra-arterial cisplatin with concomitant radiation for advanced hypopharyngeal cancer.	Laryngoscope. 2013 Apr;123(4):916-22.
63	宮本 敏伸	産科婦人科、Kao Corporation	Study of the vulnar skin in healthy Japanese women:Component of the stratum corneum and microbes	Int J Dermatol 52(12), 1500-1505, 2013

小計 16 件

64	宮本 敏伸	産科婦人科	Single-nucleotide polymorphisms in the LRWD1 gene may be a genetic risk factor for Japanese patients with Sertoli cell-only syndrome	Andrologia 46(3), 273-276, 2014
65	岩崎 肇	麻酔科蘇生科	Monitoring of neuromuscular blockade in one muscle group alone may not reflect recovery of total muscle function in patients with ocular myasthenia gravis.	Canadian Journal of Anesthesia/ Journal canadien d'anesthésie, 2013 Dec; 60(12): 1222-7
66	吉村 学	麻酔科蘇生科	[Intraoperative evaluation of visceral arteries by transesophageal echocardiography during aortic fenestration].	Journal of Anesthesia, 2013 Oct; 62(10): 1194-8.
67	鈴木 昭広	麻酔科蘇生科	Use of a new curved forceps for McGrath MAC TM video laryngoscope to remove a foreign body causing airway obstruction.	Saudi J Anaesth, 2013 Jul;7(3): 360-1
68	飯田 高史	麻酔科蘇生科	Ultrasound-guided superior laryngeal nerve block and translaryngeal block for awake tracheal intubation in a patient with laryngeal abscess.	Journal of Anesthesia, 2013 Apr; 27(2): 309-10
69	鈴木 昭広	麻酔科蘇生科	In reply: advantage of Parker Flex-tip Tube [®] in endotracheal intubation using AirwayScope [®] videolaryngoscope.	Journal of Anesthesia, 2013 Apr; 27(2): 314-5
70	奥村 利勝	総合診療部	A higher frequency of lumbar ossification of the posterior longitudinal ligament in elderly in an outpatient clinic in Japan	Int. J. Gen. Med., 27(6): 729-32, 2013
71	奥村 利勝	総合診療部	An adult patient with cyclic vomiting syndrome successfully treated with oral sumatriptan.	Am J Gastroenterol., 109(2): 292-3, 2014
72	野津 司	地域医療教育学講座	Water-avoidance stress enhances gastric contractions in freely moving conscious rats: role of peripheral CRF receptors	J. Gastroenterol., 49(5): 799-805, 2013
73	鳥本 悦宏	腫瘍センター	A retrospective clinical analysis of Japanese patients with peripheral T-cell lymphoma not otherwise specified: Hokkaido Hematology Study Group	Int. J. Hematol., 98(2): 171-178, 2013
74	北田 正博	乳腺疾患センター	Esophageal schwannoma: A case report	World J. Surg. Oncol., 11, 253, 2013
75	北田 正博	乳腺疾患センター	IgG4-related lung disease showing high standardized uptake values on FDG-PET: Report of two cases	J. Cardiothoracic Surg., 8(1), 160, 2013
76	國澤 卓之	手術部、Bell Medical Solutions	Population pharmacokinetics of olprinone in healthy male volunteers.	Clin Pharmacol. 6, 43-50. 2014
~				

小計 13 件

合計 76 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(英語以外の論文)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	澤田 潤	第一内科	関節リウマチとサルコイドーシスに重症筋無力症が合併した1例	臨床神経学, 53(5), 351-355, 2013
2	澤田 潤	第一内科	AMPA受容体サブユニットGluA2のQ/R部位RNA編集率に対する薬剤の効果	臨床神経学, 53(12): 1411, 2013
3	坂本 央	第一内科	心臓突然死予知への挑戦 非虚血性心筋症におけるMRI遅延造影域と12誘導ホルター心電図解析によるTWAの局在との関連	心電図, 34(Suppl.2), S-2-34, 2014
4	南 幸範	呼吸器センター	術後病理病期II/III期非小細胞肺癌完全切除例の術後CBDCA+TS-1併用療法の認容性の検討	肺癌, 53(5), 528, 2013
5	吉田 遼平	呼吸器センター	超音波ガイド下経気管支針生検にて診断した縦隔リンパ節限局型アミロイドーシスの1例	気管支学, 35(6), 683, 2013
6	藤谷 幹浩	第三内科	潰瘍性大腸炎と粘膜治癒	日本消化器病学会雑誌, 110(11), 1900-1908, 2013
7	田中 一之	第三内科	空腸憩室からの大量出血に対してダブルバルーン内視鏡により完全止血し得た1例	日本内科学会雑誌, 102(8), 2050-2052, 2013
8	田中 亮介	小児科	インフルエンザ菌b型ワクチン接種後にHib肺炎、菌血症を生じた1例	日本小児科学会雑誌, 118(1), 42-46, (2014.01)
9	長屋 建	周産母子センター	一ヵ月健診時の母子愛着行動と周産期因子の関係	北海道小児保健研究会雑誌, 31-35. (2014.2)
10	齊藤 幸裕	第一外科	原発性リンパ浮腫診断治療指針の上梓と克服へ向けた今後の展開	リンパ学, 36(1), 40-46, (2013.06)
11	東 信良	第一外科	脈管疾患の症状と身体所見	日本医師会雑誌, 142(9), 1941-1945, (2013.12)
12	松田 佳也	呼吸器センター	マウス急性肺障害モデルにおける骨髄系細胞のMDL-1の機能と役割についての検討	北海道医学雑誌, 88(4-5), 133-140,(2013.09)
13	林 諭史	呼吸器センター	乳癌との鑑別を要した乳腺平滑筋過誤腫の1例	日本臨床外科学会雑誌, 75(1), 24-28, (2014.01)
14	今井 浩二	第二外科、富良野病院外科、大西病院外科	術後早期に再発した胆外胆管原発腺扁平上皮癌の1例	臨床外科, 68(9), 1119-1126, 2013
15	海老澤 良昭	第二外科	Bevacizumab高用量の再投与にて長期生存を得た結腸癌大動脈周囲リンパ節転移の1例	癌と化学療法, 40(10), 1401-1404, 2013
16	宮本 正之	第二外科	肝疾患に対する外科治療肝細胞癌治療の最近の話題	北海道外科雑誌, 58(1), 12-18, 2013.
17	北 健吾	第二外科	再燃治療中に2度の結腸穿孔を発症したWegener肉芽腫症の1例	日本臨床外科雑誌, 74(12), 3410-3415, 2013

小計 17 件

18	小原 啓	第二外科	上部消化管疾患に対する外科治療胃がん術後の再建方法	北海道外科雑誌, 58(2), 2-6, 2013
19	長谷川 公治	第二外科、中島病院、札幌東徳洲会病院外科	腹腔鏡補助下胃切除術における簡便な肝圧排法の工夫	北海道外科雑誌, 58(2): 43-46, 2013
20	山本 明美	皮膚科	新・皮膚科セミナリウム 臨床に役立つ基礎皮膚科学 角化症を理解するための基礎皮膚科学	日本皮膚科学会雑誌, 124(2), 149-157, 2014
21	松尾 梨沙	皮膚科	類天疱瘡治療中の患者に生じた原発性皮膚クリプトコッカス症の1例	皮膚科の臨床, 55(8), 977-981, 2013
22	本間 大	皮膚科	症状に著明な季節変動がみられた Alopecia Universalisの1例	皮膚科の臨床, 56(3), 352-353, 2014
23	堀 仁子	皮膚科	トリゾミー8を伴ったSweet症候群の1例	臨床皮膚科, 68(2), 118-121, 2014
24	林 圭	皮膚科	テルミサルタン・ヒドロクロロチアジドによる光線過敏型蕁疹の1例	皮膚科の臨床, 55(8), 1070-1071, 2013
25	上原 治朗	皮膚科	悪性黒色腫 悪性黒色腫の危険因子 環境因子	日本臨床, 71(増刊4 皮膚悪性腫瘍), 77-80, 2013
26	高橋 千晶	皮膚科	甲状腺機能亢進症に対しチアマゾール投与中の母親から出生した先天性皮膚欠損症の1例	皮膚科の臨床, 55(4), 540-541, 2013
27	花田 一臣	眼科	遠隔医療支援システムを活用した眼科遠隔医療の運用実績	日本遠隔医療学会雑誌, 9(2), 125-128, 2013
28	石子 智士	眼科	日本における青年期の近視の頻度 医大生における研究	日本の眼科, 84(6)付録, 56-61, 2013
29	木ノ内 玲子	眼科	遠隔手術支援システムを利用した医学部学生への手術教育	日本遠隔医療学会雑誌, 9(2), 129-131, 2013
30	山口 亨	眼科	遠隔医療システムを活用した眼科術後管理の有用性	日本遠隔医療学会雑誌, 9(1), 33-38, 2013
31	大原 賢三	耳鼻咽喉科、北見赤十字病院	自殺企図による総頸動脈損傷例	耳鼻咽喉科臨床, 106(8), 747-751, 2013.8
32	上村 明寛	耳鼻咽喉科	甲状舌管に発生した乳頭癌例	耳鼻咽喉科臨床, 106(5), 447-453, 2013.5
33	熊井 琢美	耳鼻咽喉科	分子標的薬が奏功した腎癌鼻副鼻腔転移例	耳鼻咽喉科臨床, 106(5), 423-429, 2013.5
34	吉田 沙絵子	耳鼻咽喉科	PFAPA症候群例	耳鼻咽喉科臨床, 106(4), 329-333, 2013.4
35	林 達哉	耳鼻咽喉科	抗菌薬の適正使用とは何か いつ増量し、いつスイッチするか 耐性菌を増やさないと いう視点からの考察	日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌, 31(1), 41-44, 2013.5

小計 18 件

36	市川 英俊	産科婦人科	早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術における子宮マニピュレーターの影響に関する検討	北海道産婦人科学会誌, 58(1), 81-84, 2014
37	小野寺 美子	麻酔科蘇生科	術中心停止を来した頸動脈小体腫瘍の1症例	麻酔, 63(1), 81-83, 2014
38	岩崎 肇	麻酔科蘇生科	2型糖尿病患者におけるTOFウォッチSXを用いた筋弛緩モニタリングの留意点	麻酔, 62(8), 929-934, 2013
39	菅原 亜美	麻酔科蘇生科	コリン性蕁麻疹患者の全身麻酔管理においてSmartPilot Viewを使用した1症例	臨床麻酔, 37(10), 1467-1470, 2013
40	吉村 学	麻酔科蘇生科	腹部大動脈開窓術中に経食道心エコーで分枝動脈の血流評価を行った1症例	麻酔, 62(10), 1194-1198, 2013
41	鎌田 恭輔	脳神経外科	脳皮質電位による言語・記憶機能野の局在解析	日本生体磁気学会誌特別号, 26(1), 94-95, 2013
42	小川 博司	脳神経外科	脳皮質電位/脳皮質電気刺激による機能局在を行った脳腫瘍の1例	脳神経外科ジャーナル, 22(10), 786-791, 2013
43	鎌田 恭輔	脳神経外科	術中モニタリング 手術における機能温存の工夫	Clinical Neuroscience, 31(10), 1161-1162, 2013
44	谷 和俊	歯科口腔外科	頬部軟組織内に大きな結石様石灰化物の形成をきたした1例	日本口腔外科学会雑誌, 59(4), 265-269, 2013
45	岡田 基	救急科	非抗炎症性薬剤における抗炎症作用 2・敗血症とbeta遮断薬	ICUとCCU, 37(11), 801-809, 2013
46	吉田 直樹	リハビリテーション科	アトピー性脊髄炎による運動障害に対するリハビリテーション	リハビリテーション医学, 50(5), 339, 2013
47	阿部 泰之	緩和ケア診療部	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合錠投与初期の嘔気に対する制吐薬の効果—既存対照群との比較—	整形外科, 65(1), 21-25, 2014
48	阿部 泰之	緩和ケア診療部	「医療介護福祉の地域連携尺度」の開発	Palliative Care Research, 9(1), 114-20, 2014
49	伊藤 栄祐	臨床検査・輸血部	Matrix-Assisted Laser Desorption/Ionization Time of Flight Mass Spectrometry(MALDI-TOF MS)2機種による血液培養分離菌の同定成績について	臨床病理, 61(5), 382-389, 2013
50	友田 豊	臨床検査・輸血部	冷式抗体保有患者への対応抗原陽性赤血球製剤輸血 多施設共同研究による冷式抗体の臨床的意義の評価	日本輸血細胞治療学会誌, 59(5):733-739, 2013
51	川田大輔	集中治療部	呼気終末二酸化炭素モニター-end-tidal CO ₂ :ET CO ₂	ICUとCCU, 38(3), 185-188, 2014
~				

小計 16 件

合計 51 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 臨床研究の実施に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年28回 (持ち回り審議)

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容 各種指針（臨床研究に関する倫理指針、疫学研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針）に関する講習	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心血管カテーテル治療、先進的肺癌治療、心血管再生療法、不整脈治療、腎炎ネフローゼの集学的治療、糖尿病腎症の寛解を目指した集約的治療、膵癌・肝癌の集学的治療、膠原病・内分泌疾患における集学的診断治療法、炎症性腸疾患の新規治療：新しい絶体療法を含むLBDの治療、特殊光内視鏡や小腸内視鏡を駆使した診断治療、消化管腫瘍の内視鏡治療：EMR・ESDによる早期性治療、カプセル内視鏡・小腸内視鏡を用いた小腸疾患治療：小腸癌・リンパ腫をはじめ小腸疾患の最新の診断治療、消化管疾患を有する悪性リンパ腫に対する最新の診断治療、輸血後鉄過剰症に対する最新のマネジメント：新規鉄キレート療法を含む、小児救急医療、新生児医療、最先端の弓部大動脈瘤手術、高難度バイパス手術による救肢治療、整容性を考慮した乳房温存手術、最先端の弓部大動脈瘤手術、腹腔鏡補助下消化管癌手術、炎症性腸疾患外科治療、肝胆膵領域高難度手術、人工股関節置換術、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検、上部尿路結石に対する内視鏡的手術、難治性下部尿路機能障害の診断と治療、極小切開白内障手術、難治緑内障に対する手術療法、角膜パーツ移植術、糖尿病網膜症の硝子体手術、超選択的動注化学療法、人工内耳埋め込み術とその管理、音声再建外科、内視鏡手術、胎児超音波診断、高度生殖医療、CT・MRI・US・血管造影・核医学・PET-CTによる総合画像診断、IVR、放射線治療、RI内用療法、マンモグラフィ読影、3Dエコー診断による手術中の心機能評価、高感度超音波診断装置を利用した選択的末梢神経ブロック、薬物シミュレーションを用いた効果部位濃度測定による薬物管理、硬膜外内視鏡を用いた腰下肢痛治療、ニューロナビゲーター支援下脳神経手術、神経内視鏡支援下脳神経手術、難治性てんかんに対する焦点部切除手術、3次救急初療、人工呼吸管理、経食道心エコー、ドクターヘリ講習、気道管理における超音波の利用、超音波ガイド下中心静脈穿刺、超音波による胃内容の評価、周産期救急・敗血症性DICの管理 等

2 研修の実績

研修医の人数	66.67 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大崎 能伸	呼吸器内科	教授	34 年	
長谷部 直幸	循環器内科 腎臓内科 神経内科	教授	34 年	
羽田 勝計	膠原病・内分泌内科 消化器内科 糖尿病科	教授	38 年	
高後 裕	消化器内科 血液腫瘍内科	教授	40 年	
千葉 茂	精神科神経科	教授	35 年	
東 寛	小児科	教授	35 年	
東 信良	血管外科	教授	29 年	
北田 正博	呼吸器乳腺外科	教授	27 年	

紙谷 寛之	心臓大血管外科	教授	17	年	
古川 博之	消化器外科・移植外科	教授	34	年	
伊藤 浩	整形外科	教授	26	年	
飯塚 一	皮膚科	教授	41	年	
柿崎 秀宏	泌尿器科	教授	29	年	
長岡 泰司	眼科	准教授	21	年	
原淵 保明	耳鼻咽喉科	教授	32	年	
千石 一雄	産科婦人科 周産母子科	教授	35	年	
高橋 康二	放射線科	教授	32	年	
岩崎 寛	麻酔科蘇生科	教授	39	年	
鎌田 恭輔	脳神経外科	教授	26	年	
松田 光悦	歯科口腔外科	教授	34	年	
奥村 利勝	総合診療部	教授	30	年	
藤田 智	救急科	教授	33	年	
大田 哲生	リハビリテーション科	教授	25	年	
阿部 泰之	緩和ケア診療部	病院講師	25	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
次ページ以降参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
次ページ以降参照
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	<u>初任者研修</u> 看護部運営と方針、継続教育、看護倫理、接遇、医療安全、他部門紹介等の講義を受け、病院組織における役割・心構えを理解し、適切な行動について認識する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 4 月 2～5 日、8～11 日（7 日間/人） 1 回
	研修の参加人数	73 人
2	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅰ・基礎Ⅱ）</u> 安全を確保し、的確な看護判断と末梢点滴静脈注射、酸素療法、経口・直腸与薬、筋肉注射等の看護技術を実践する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 4 月 12 日～18 日（2.5 日/人） 1 回
	研修の参加人数	66 人
3	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅲ）</u> 所属部署で実施する看護技術を患者・家族に説明でき、安全に適切に提供する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 5 月～7 月（2 日間/人） 1 回
	研修の参加人数	66 人
4	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅳ）</u> 食事介助、高齢者の転倒転落予防について、事例の状態をもとに一連の看護技術を体験する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 8 月 19 日～22 日（3 時間/人） 1 回
	研修の参加人数	65 人
5	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅰ・Ⅱ</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、

		基礎看護技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 5 月 30 日・31 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	66 人
6	研修の主な内容	<u>新卒者メンバーシップ研修</u> チーム医療におけるコミュニケーションと倫理的態度について理解を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 6 月 14 日・6 月 15 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	66 人
7	研修の主な内容	<u>新卒者看護過程</u> 患者のニーズに沿った看護計画協働立案の理解を深め、実践能力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 18 日・19 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	66 人
8	研修の主な内容	<u>新卒者シミュレーション研修</u> 多重課題・時間切迫の状況下における傾向を自ら気づき安全なケアの実践力を高めるために場面設定による演習、グループワークを行う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 10 月 29 日・30 日・31 日 (100 分/人) 1 回
	研修の参加人数	64 人
9	研修の主な内容	<u>新卒者私の看護</u> 事例検討を通して、看護の視点を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 1 月 23 日・24 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	64 人
10	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅲ</u> 静脈注射を安全に実施するための知識を備え、

		実践能力を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 2 月 13 日・14 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	65 人
11	研修の主な内容	<u>新任者静脈注射 I・II・III</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 4 月 19 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	5 人
12	研修の主な内容	<u>卒後 2 年目事例検討</u> 実践事例を通して、根拠に基づいたケアを分析し、自己の課題を明らかにする。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 9 月 19 日・20 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	65 人
13	研修の主な内容	<u>卒後 3 年目看護研究</u> 看護実践における疑問や問題の解決をめざすための研究的視点を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 5 月～11 月 (4 日間/人) 1 回
	研修の参加人数	57 人
14	研修の主な内容	<u>教育担当者研修 II</u> リフレクションを用いて、新人看護師教育に関わるスタッフを支援する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 30 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	44 人
15	研修の主な内容	<u>教育担当者研修 III</u>

		事例を通して、多角的な視点で看護診断過程を学び、看護計画協働立案の方策を考える。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 10 月 18 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	41 名
16	研修の主な内容	<u>教育担当者研修 I</u> 新人看護職員研修における看護倫理教育について学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 3 月 7 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	41 名
17	研修の主な内容	<u>プリセプターシップ II</u> 新人看護師が職場に適応できるように支援する力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 5 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	44 名
18	研修の主な内容	<u>プリセプターシップ I</u> プリセプターシップについて学び新人看護職員の支援について理解を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 2 月 21 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	49 人
19	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修</u> 組織を理解し自立を支援するリーダーシップについて学ぶために講義とグループワークを行う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 10 月 3 日・4 日 (2 日/人) 1 回
	研修の参加人数	37 人
20	研修の主な内容	<u>看護過程指導者研修</u> 事例検討を通して、看護過程と看護実践について再認識し、実践モ

		デルとしての看護力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 10 月 11 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	30 人
21	研修の主な内容	<u>看護学実習指導者研修</u> 講義とグループワークを通して看護学生の看護実践を指導する能力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 2 月 28 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	40 人
22	研修の主な内容	<u>副看護師長研修</u> 看護管理者としての役割を認識し、組織の目的達成のために必要な行動をとる能力を養う
	研修の期間と実施回数	1 回目：平成 25 年 8 月 1 日・2 日 2 回目：平成 25 年 12 月 5 日・6 日 (0.5 日/人) 2 回
	研修の参加人数	51 人
23	研修の主な内容	<u>看護師長研修</u> 管理者に必要な労務に関する知識を習得し、看護職の心身の健康を保ち、円滑な組織運営と働き続けられる職場を目指す。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 11 月 27 日 (3 時間/人) 1 回
	研修の参加人数	29 人
24	研修の主な内容	<u>院内体験研修</u> 部署で未経験・実施できない基礎看護技術を体験し、他部署とのつながりや看護の継続について振り返る。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月～平成 26 年 2 月 (1 日/人) 1 回

	研修の参加人数	63 人
25	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー初級</u> 看護診断の意味・意義・活用を理解する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 5 月 11 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	103 名
26	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー中級</u> アセスメントと看護診断プロセスを理解する。看護診断に必要な知識を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 8 月 24 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	97 人
27	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー上級</u> 事例検討を通し、アセスメントから看護診断する過程を理解し、看護診断指導のポイントを理解する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 9 月 7 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	84 名
28	研修の主な内容	理論と実践 I・II 実践の場での体験と理論を結びつけ、統合する力を養う
	研修の期間と実施回数	1 回目：平成 25 年 8 月 3 日 2 回目：平成 25 年 11 月 30 日 (1 日/人) 2 回
	研修の参加人数	30 人
29	研修の主な内容	<u>在宅療養支援</u> 主体的、建設的に意見交換する力を伸ばし、チームによる在宅療養支援の実践力を高める
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 11 月 26 日・28 日 (90 分/人) 1 回

	研修の参加人数	24 人
30	研修の主な内容	<u>看護研究</u> 看護実践の質向上に向けた研究力を高める
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 8 月 9 日・10 月 25 日・12 月 13 日 (2 時間/人) 3 回
	研修の参加人数	10 人
31	研修の主な内容	新卒者看護 OSCE 客観的臨床技能試験 口鼻腔吸引の演習を実施し、自己の看護技術の向上を目指し、主体的な学習姿勢を培う
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 12 月 9 日・10 日・17 日 (30 分/人) 1 回
	研修の参加人数	56 人
32	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス I</u> 講義とグループワークを通し、がんとともに生きる人々とその家族の体験や特徴を理解し、患者と家族の意向を尊重した看護実践を展開するための基盤となる考え方や知識を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 11 日～11 月 8 日 (70 分/人) 3 回
	研修の参加人数	述べ 196 人
33	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス II</u> がん化学療法に伴う代表的な副作用症状について理解し、適切な対処方法とセルフケア支援のための知識を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 1 月 16 日～2 月 7 日 (90 分/人) 2 回
	研修の参加人数	述べ 79 人
34	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス III</u> 講義とグループワーク、事例検討会を通し、がん化学療法看護の専

		門的知識をもとに包括的アセスメントを行い、看護経験に基づくケースを分析し、個別的・全人的な看護を展開する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 3 日～平成 26 年 1 月 30 日 (90～180 分/人) 4 回
	研修の参加人数	述べ 80 人
35	研修の主な内容	<u>口腔ケアと摂食嚥下障害看護に関する研修</u> 講義と演習を通し、口腔ケアと摂食・嚥下障害看護に関する看護実践に役立つ知識・技術を学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 30 日 (2.5 時間/人) 1 回
	研修の参加人数	65 人
36	研修の主な内容	<u>在宅療養に向けた早期からの看護支援</u> 4 名の認定看護師、看護学講座在宅看護学教授より講義を通し、在宅療養支援の知識を学び実践能力を高める。
	研修の期間と実施回数	1 回目：平成 25 年 10 月 1 日 2 回目：平成 25 年 11 月 6 日. (90 分/人) 2 回
	研修の参加人数	述べ 200 人
37	研修の主な内容	新卒者・新任看護師に対する静脈注射研修
	研修の期間と実施回数	4 月と 5 月 計 3 回
	研修の参加人数	70 名

②業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	看護必要度研修 本研修は、看護必要度の評価者として必要な知識・能力を養うことを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 5 月 9 日 5 月 10 日
	研修の参加人数	76 名
2	研修の主な内容	第 1 回看護助手研修 本研修は、看護助手が大学病院における看護助手の役割を理解すること、看護助手に必要な技術を身に着けることを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 7 月 23 日～26 日
	研修の参加人数	56 名
3	研修の主な内容	第 2 回看護助手研修 本研修は、看護助手が業務における感染対策について理解すること、生活援助技術の実践力を養うことを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 12 月 2～3 日 12 月 5～6 日
	研修の参加人数	54 名
4	研修の主な内容	リスクマネジメントに必要とされる看護記録
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 3 月 6 日
	研修の参加人数	99 名
5	研修の主な内容	ゴードンの機能的健康パターンの「アセスメント枠組み」概要 ゴードンの機能的健康パターンのアセスメント枠組み導入後の記録の留意点 ゴードンの機能的健康パターンを用いた「看護アセスメント・データベース」

	研修の期間と実施回数	平成 25 年 12 月 3 日、12 月 6 日
	研修の参加人数	282 名
6	研修の主な内容	接遇研修（職員のコミュニケーション能力の向上、職員の意識改革及び資質向上を図る）
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 12 月 2 日
	研修の参加人数	254 名
7	研修の主な内容	個人情報保護に関する講演会（個人情報の取扱い及び保護に対する理解を深めるとともに意識の高揚を図る）
	研修の期間と実施回数	平成 26 年 1 月 21 日
	研修の参加人数	224 名
8	研修の主な内容	メンタルヘルス研修会（病院勤務者のメンタルヘルスについて）
	研修の期間と実施回数	平成 25 年 6 月 18 日
	研修の参加人数	140 名

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 松野 丈夫
管理担当者氏名	総務課長 大石 和博、会計課長 伊藤 恒明、経営企画課長 成田 昭夫、 医療支援課長 沼舘 敏光、薬剤部長 田崎 嘉一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		病院事務部 経営企画課 医療支援課 薬剤部	コンピューターによる集中管理 を行っている。 カルテ等病歴資料、外来・入院 別に1患者1ファイル方式とし 、エックス線写真は分冊になっ ているが1患者単位での管理を 行っている。	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部総務課	また、旭川医科大学病院診療情 報管理規定の「利用資格者の遵 守事項」において、学外への持 ち出しを禁止しているため、病 院外へ持ち出すことは出来な いこととなっている。	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部経営企画課		
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	総務部総務課		
	高度の医療の研修の実績	総務部総務課 病院事務部経営企画課		
	閲覧実績	病院事務部経営企画課		
	紹介患者に対する医療提供 の実績	病院事務部経営企画課		
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部経営企画課		
	第規 一則 号第 一掲 条の る十 体一 制第 一確 保各 の号 状及 況 び 第九 条の 二十 第一 項	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況		医療安全管理部
		医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況		医療安全管理部
医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況		医療安全管理部		
専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置状 況		総務部総務課		
専任の院内感染対策 を行う者の配置状況		総務部総務課		
医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況		総務部総務課		
当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況		病院事務部医療支援課		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務部会計課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 千葉 正勝		
閲覧担当者氏名	経営企画課長 成田 昭夫		
閲覧の求めに応じる場所	会議室（共通棟（B））		
閲覧の手続の概要			
①経営企画課病院庶務係で閲覧申込（申込者、閲覧理由等を記入）を受ける。 ②病院事務部長の承認を受ける。 ③指定した日時に会議室で閲覧（担当係員立会）。 ④閲覧終了後、担当係員に返却し、担当係員は閲覧事項等を報告する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理の基本理念 (2) 安全管理組織体制の整備 (3) 部門の長の管理責任の明確化 (4) 診療マニュアルの活用(本編・携帯ポケットマニュアル) (5) インシデントと医療事故の用語の定義 (6) インシデント報告体制 (7) 医療事故発生時の対応 (8) 医療関連死・C P A-O A 症例の剖検に関する指針 (9) 医療相談窓口の設置 (10) 本指針改正の定義</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療事故防止対策の検討及び推進 (2) 医療事故防止の啓発活動(講演会等の企画立案を含む) (3) インシデント報告の調査及び分析を行い、その改善策を講じ、改善事項・周知事項の周知徹底を図る (4) 医療事故防止対策マニュアルの見直し (5) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年18回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>初任者研修(新規採用研修医・看護師)、新規採用医師・中途採用者の教育(看護師、事務職員、コ・メディカル)、ME 機器セミナー(輸液ポンプ・シリンジポンプ・カンガルーポンプ:全2回)、外部講師による講演会、各部門における安全の取り組み報告会&ポスターセッション(2日間:内容別)、事例検討会、eラーニングで学ぶ医療安全など</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 「医療安全ポケットマニュアル(第7刷)」を発行した。</p> <p>(2) MR I 検査室で、点滴ポンプとして、シリンジポンプとして使用可能な点滴スタンドを導入した。</p> <p>(3) E N B D ドレナージがウォーターシールドになっていなかった事例を受け、G ボトル収納場所に、作成・使用手順を画像でわかりやすく明記し貼っておくこととした。</p> <p>(4) 高濃度酢酸液を誤注入し、死亡したとの報道を受け、本院の現状を調査し、薬品棚および臨時ハイリスク薬の管理体制の統一を図った。</p> <p>(5) 病院救急車用ストレッチャーからの転落事例を受け、当該部署でストレッチャーの操作研修を開催した。</p> <p>(6) 眼科手術時の使用薬剤の間違い事例を受け、原因が希釈基材が蒸留水から生食に変更になったことの周知不足であることを確認し、手順の作成と周知を行った。</p> <p>(7) 診察後、患者が点滴センターに行かずに帰宅してしまったためホルモン療法が実施されなかった事例を受け、「目印札」を作成し運用することとした。</p> <p>(8) 厚生労働省よりアンカロン注射液の指定区分が毒薬から劇薬に変更されたのを受け、アンカロン注射液をハイリスク薬から外し要注意薬として継続することとし、救急カートに入れることとした。</p> <p>(9) 血糖スケールに沿って点滴流量を下げる指示があったが下げ忘れた事例を受け、処置や介入後の声出し、指差し、ファイナルチェックを指導した。</p> <p>(10) ベッドからの転落、点滴の急速滴下の事例を受け、点滴交換や患者処置時のベッド周辺の整理確認や、点滴ルート交換時の声出し、指差し、ファイナルチェックなどを指導した。</p>	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・無
<p>・所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (6) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療の質の向上及び安全に関する事項 (2) インシデントレポート等に関する調査・分析 (3) 医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知 (4) 医療調査委員会開催の要否 (5) 院内各部署における医療安全管理状況の点検 (6) 医療の安全性に係る教育および研修 (7) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知 (8) 医療事故防止対策マニュアルの見直し (9) 医療安全に関する院外への情報提供 (10) その他医療安全に関する事項 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染対策に関する基本的な考え方・感染制御部・ICTなどの組織的な取組み院内感染対策のための職員研修に対する基本指針感染症発生状況の報告に関する基本方針院内感染発生時の対応に関する基本方針患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年30回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">院内感染の予防に関すること院内感染の情報収集に関すること感染源の追及等のための検査実施に関すること防疫対策の確立に関することHIV感染症の医療体制に関することその他、院内感染対策についての重要事項に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年21回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">初任者研修オリエンテーション（講義）中途採用者研修（講義）手指衛生・PPE着脱演習（新採用者、中途採用者、各部署の教育担当者）院内感染対策に係る講演会針刺し事故防止教育・指導eラーニング	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">微生物検査室と連携し微生物の新規検出状況を毎日把握しており、当該検出部署の感染対策マネージャーに連絡を行い感染予防策の実施について確認している。また、アウトブレイクが疑われる場合は菌種の遺伝子検査を実施し、同一菌種による発症事例が多数の場合は病院長に報告するとともに、保健所に報告する体制が構築されている。感染制御部における「適正な手指衛生・個人防護服の着用演習」について、新規採用職員、中途採用職員など病院職員全体に実施している。また、教育対象を外注職員、ボランティアに拡大するなど院内の感染対策に努めている。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などのICTメンバーによる感染制御チームを設置し、1ヶ月に4回以上院内ラウンドを実施し、各種の予防策の実施状況やその効果等の評価を行っている。感染制御チームのラウンドのほかに、感染対策リンクナースとともに各部署の「感染対策オーデイット」を行い、感染対策実施状況のチェックと指導を行っている。 23年4月より感染制御部に専従医師1名配置となり、医師、薬剤師、看護師のチームで抗菌薬ラウンドを実施し、抗MRSA薬・カルバペネム系薬の監視体制の強化を図っている。24年4月より、本院を含めた旭川市内6医療機関での連携が開始された。平成25年4月からは1医療機関脱退し、5医療機関で合同カンファレンスの実施や相談体制などの構築、加算1算定医療機関同士の相互チェックを実施している。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 初任者研修 (対象：全職員：看護師：研修医) H24. 4. 3, 5 新規採用者全員 (2) 新規採用医師並びに看護師の中途採用者の教育 H24. 4. 22～適時 継続中 (3) 医療安全に関する講演会 H25. 11. 19 計128名 (4) その他の研修会 ① 第1回事例検討会 (事例から学ぶ) H25. 9. 3 45名 ② 安全管理・感染制御部合同研修 (安全の基本の基本等) H25. 8. 29 計394名 ③ 各部門での安全への取り組み (報告会・ポスターセッション) H25. 12. 4-5 計732名 ④ ME機器セミナー (「輸液ポンプ・シリンジポンプ」等) H25. 9. 20, H25. 9. 30 計256名 ⑤ 第2回事例検討会 (事例から学ぶ) H25. 2. 18 計52名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理 (5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 外来患者への医薬品使用 (7) 入院患者への医薬品使用 (8) 麻薬管理 (9) 院内製剤 (10) 他施設との連携 (11) 医療事故防止および発生時の対応 (12) 教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器安全情報 (2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update (3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 27 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>定期研修</p> <p>ME 機器セミナー（経腸栄養ポンプ、シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、除細動器） 医療機器の安全使用推進者養成講座（シリンジポンプ、輸液ポンプ） 人工心肺操作時のトラブル対応シミュレーション 人工呼吸療法に関するセミナー、高気圧酸素治療装置のトラブルシミュレーション 血液浄化療法に関するセミナー 保育器導入時のメーカーによる説明及び研修 除細動器に関するセミナー</p> <p>新しい医療機器の導入時の研修</p> <p>耳鼻科領域の手術装置 NO吸入療法装置 保育器 麻酔器 末梢血管貫通システム</p> <p>機器の安全性、使用上の注意、保守点検、事故等の報告義務 放射線発生装置の定期点検後の装置の状態説明 ¹⁹⁷Ir線源交換・払出、線源校正 診療用放射線照射装置の定期点検後の装置の状態説明</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検 (2) 人工呼吸器は始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検 (3) 血液浄化装置は始業点検及びメーカーによる定期点検 (4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検 (5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検 (6) 保育器の日常点検、定期的な点検 (7) 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、核医学撮影装置の始業・終業点検及び定期点検（1か月毎、1か年毎）、装置の品質維持管理 (8) 業者による定期保守点検 ① 診療用高エネルギー放射線発生装置 ② 診療用放射線照射装置 ③ 核医学撮影装置 (9) 業者に対する機器故障時のオンコール</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

(1) 情報収集の方法

- ①医療機器に関する情報提供のホームページを活用
- ②医薬品医療機器情報配信サービス(PMDAメディナビ)の登録
- ③メーカー主催のメンテナンス講習会への参加
- ④医療機器に関連する学会への参加
- ⑤メーカー担当者からの報告及び情報の収集
- ⑥放射線医療機器に関する情報提供のホームページを活用
- ⑦放射線医療機器に関連する学会への参加

(2) 情報の周知

- ①ME 機器セミナーによる報告
- ②文書配付による通知
- ③メーカー担当者から関連部署への通知の依頼
- ④研修時の定期報告と確認
- ⑤記録簿等の報告と確認

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2010年6月4日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 院内掲示及びホームページ等により、特定機能病院であることの情報発信している。 また、先進医療を新たに行う等の各種情報を、地域医師会等へ随時提供している。 その他、入院のしおり、外来診療のご案内にて病院の情報を、大学概要にて基本理念、目標、医療体制等を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 医療安全等に関し、医療の質の向上等のため、組織横断的に担う実働的な組織として医療安全管理部及び各種委員会を設置し、専任リスクマネージャーを配置する等、病院全体で連携を図って取り組んでいる。 また、院内感染対策に関しても組織的な取り組みを行っている。 チーム医療を推進し、複数の診療科や中央診療施設等が連携して、全人的医療の提供を行っている。 患者さんの病状に応じ充実した医療を提供できるよう、複数診療科における症例検討会の実施をしている（手術、化学療法、放射線治療等）。 救急科、総合診療部を受診された複数診療科領域の患者さんに対し、専門領域の臓器別診療科と連携している。	